

平成27年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

平成27年4月21日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語と数学と理科の3教科の実施となりました。また、理科は4年に一度の実施であり、本年度実施いたしました。

国語と数学の2教科については主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

理科は、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題を一体的に問う問題を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	75.8%					○
国語B	65.8%					○
数学A	64.4%		○			
数学B	41.6%	○				
理科	53.0%					○

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	79.7%					○
書くこと	73.6%					○
読むこと	86.1%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.9%					○

【考察】

- 伝える相手を意識し、よりわかりやすく伝えるための工夫や順序立てた話し方が身についています。目的意識を持たせ、ディベートやパネルディスカッションなど様々な話し合い活動を学習活動において充実させたことが効果的だったと思われます。今後も伝える力の育成を継続的に取り組んでいきます。
- 自分の考えを書く際にできるだけ短い文章で結論を先に書き、根拠を明確にする書き方の型が身についてきました。俳句や和歌などで使用する表現の工夫などを様々な場面で用いることで、文章の表現についての知識が深まっているものと考えます。さらにわかりやすく、工夫した文章が書けるよう指導していきます。
- 文章の読み取りについては、心情表現を根拠とした登場人物の心情の読み取りを行っていることで内容を理解することができています。一つ一つの言葉にこだわり、言葉について吟味する授業を行っていくことで、さらなる心情読み取りができると思います。
- 漢字の書き取りは、全国平均を上回っているものの、漢字の書きについてはさらなる努力が必要になります。継続的に漢字テストなどを実施するなど指導を行います。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	72.2%					○
書くこと	36.7%					○
読むこと	62.6%					○

【考察】

- 国語の授業を中心に自分の考えを発表する場面を多く設定しています。また、道徳や総合的な学習の時間などの授業でも自分の意見を発表する場を取り入れています。それによりわかりやすい発表をするためには、資料を活用したり、話す順序を変えたりすることが効果的であることを理解させています。今後も継続してプレゼンテーションなどを取り入れ、伝える・聞き取る力を高める授業を行っていきます。
- 一つの資料を読み、自分の考えを書くことはできますが、複数の資料を活用しながら具体的に自分の考えを書く力は不足しています。今後は、必要な情報を取捨選択し、それをもとに自分の考えを述べる力をつけていきます。
- 資料の要旨を読み取り、複数の資料の関連性を読み解くことに課題があります。文章の比べ読みや同じ題材で書かれてある新聞の内容を読んだり、書き方の比較を行ったりする授業を行い、さらに資料を読む力、要旨をまとめる力をつけていきます。

【数学A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	67.7%		○			
図形	63.4%	○				
関数	61.7%					○
資料の活用	63.0%				○	

【考察】

- 図形領域では、授業で合同条件について声に出したり記述することを繰り返すことにより、確実に証明の中で合同条件を使用する力が身につけてきました。
- 図形領域の作図において、知識が定着していない傾向が見られます。図形の性質を理解させながら作図に多くふれることで作図する力を向上させていきます。
- 関数領域ではグラフや表を利用して自分の考え方をまとめる学習を継続してきました。その結果グラフの読み取りの力が向上してきました。
- 資料の活用領域では資料の活用において、身近な生活場면을課題として取り入れたことで、より具体的に考察できる力が身につけてきました。また、放課後の学習会で復習する時間を設けたり、宿題として家庭学習の中で問題に取り組む機会を増やしたことで活用力が身につけてきました。

【数学B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	63.2%	○				
図形	39.0%	○				
関数	30.7%	○				
資料の活用	31.2%	○				

【考察】

- 数と式領域では与えられた情報を読み取る力が不足しています。説明文や表、グラフの活用の仕方を意図的に授業の中に取り入れていきます。
- 関数領域では問題解決のための必要な事象をとらえる力が不足しています。根拠を明らかにしながら、生徒同士の学び合いを大切に授業を行っていきます。
- 図形領域では平面図形と空間図形を関連づけて考察する力が不足しています。図形の性質を確認する機会を設け、平面として認識する問題と空間として認識する問題の違いを明確にする学習を継続していきます。
- 資料の活用領域では資料の中の情報を活用し、数学の専門用語や式やグラフ、表を用いて説明する力が不足しています。授業の中で基礎・基本の定着を図り、資料の読み取りと自分の考えをまとめて説明する活動を多く取り入れることで表現力や説明する力をつけていきます。

【理 科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
物理的領域	48.9%					○
化学的領域	56.2%					○
生物的領域	62.2%					○
地学的領域	46.4%					○

【考 察】

- 化学的領域において、実験結果がグラフ化されている問題でグラフを文章化したものを選択することができていませんでした。今後、グラフの利用、読み取りを多く取り入れていきます。
- 授業において、課題の設定に重点をおき実験し結果を分析・考察することを繰り返し行ってきました。そのため、発展的な実験や身近な食品での実験においても結果を正しく判断し考察文を選択することができています。
- 「天気」と「圧力」のように領域や学年が異なるものの相互に関係のある学習内容においてもその都度取り上げ学習を進めてきました。そのため総合的に考えることができています。
- 選択肢を正しく読み取り選択する問題が多く出題されました。今後も授業の中で文章を図や絵に表し理解を深められるような工夫をしていきます。